

【各学部の事例】

中学部



I 授業実践の事例①

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象生徒・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
A (1年)	国語 中1	聞く 話す	・発音や声の大きさに気を付けて話すことができる。	○	・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えている。	○	・相手に応じた受け答えに関する学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	○
B (2年)	国語 小3	聞く 話す	・日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知っている。	○	・経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考え、表現している。	○	・自分の気持ちを表す言葉を探したり、話す順序を考えて表現することに関心をもったりして、積極的に取り組もうとしている。	△
C (1年)	国語 小3	聞く 話す	・読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知っている。	○	・見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて考え、表現している。	○	・自分の気持ちを表す言葉を探したり、話す順序を考えて表現することに関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	△

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
 △：一部達成している。まだ支援を要する。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名 (指導内容) ★アルファベットは生徒名を示す。
国語	「思い出を伝えよう」①②③ (学校行事や学習に関する感想を文章にまとめて発表する) …C 「聞いて話して物語をつくろう」(話を聞いて内容を捉え、物語の続きを話してつくる) …C 「読んでみよう」(物語を読んで、内容を理解する) …A、B 「伝わる話し方」(自分の気持ちを相手に分かりやすく伝える) …A、B
生活単元 学習	「ピザを作って伝えよう」①② (ピザのおいしさ、会食をする楽しさを周りの人に伝える) …A、B、C
作業学習	「家族や先生たちに喜んでもらえる和紙製品を作ろう」(正しい言葉遣いや姿勢で報告をする) …A、B、C
日常生活 の指導	「朝の会」(司会進行、挨拶) …A、B、C 「帰りの会」(感想発表) …A、B、C

(3) 国語科の対象単元の実践事例

① 単元名「聞いて話して物語をつくろう」(計1時間) ★令和7年10月実施

② 単元目標

- ア 相手の話を聞く約束を理解し、登場人物や出来事を捉えながら、簡単な言葉で物語の続きを話すことができる。(知・技)
- イ 聞いた話をもとに内容を思い出し、想像を広げて順序を意識しながら、自分の考えを言葉で表現することができる。(思・判・表)

ウ 順番を守って話を聞き合い、友達と物語をつくる楽しさを感じながら、自分の考えを伝えようとする態度を養う。(学・人)

③ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
C(1年)	国語 小3	○	○	○	教師が創作した短い物語を聞いて、登場人物の行動や気持ちを理解していた。また、物語の続きを想像力豊かに考え、友達同士で発表し合うことができた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 生活単元学習の対象単元の実践事例

① 単元名「よろこんでもらおうプロジェクト ～ピザを作って伝えよう③」(計 23 時間)

★令和7年11月実施

② 単元目標

ア 読み聞かせやピザづくりの活動に向けて、自分の役割や活動の手順を理解し、小学部児童に分かりやすく伝えるための表現の仕方や資料の使い方を身に付ける。(知・技)

イ 小学部児童に喜んでもらうために、自分の意見や考えを伝えたり、友達と協力したりして読み聞かせ発表やピザの調理活動を行う。(思・判・表)

ウ ピザ屋の開店や、それまでの準備活動を通して、自分の役割を果たす責任や人と関わる楽しさを味わい、相手から喜んでもらえることの達成感を得る。(学・人)

③ 単元の概要

本単元「よろこんでもらおうプロジェクト」は、身近な人への感謝や「喜んでほしい」という思いを伝えることをねらいとしている。これまでに保護者や新任職員を対象としてピザを作って食べていただく活動を重ねてきた。そういった経験を通して、生徒の中には「ピザを振る舞い喜びを共有したい」という意欲が芽生え、自らの思いを言葉で表現する力や達成感も育ちつつある。

本活動は小学部児童を対象とした3回目の取り組みであり、繰り返し学習を行うことで、自らの役割を意識し、周囲と協力して行動できる力の向上を期待して設定した。こうした体験の積み重ねを、生徒たちの豊かな心の成長につなげたいと考えている。

国語科との関連においては、「話す・聞く」「書く」学習を基盤に据え、インタビューや招待状作り、発表原稿の作成といった活動を通じ、相手に伝わる話し方や文章表現の習得を図る。特に、気持ちを言葉で表すことが難しい生徒に対しても、実体験に裏打ちされた表現力を引き出せるよう工夫し、自分の思いを伝える力を総合的に高めていくことができると考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 話したり、聞いたりするときの約束の確認

普段から話すときの姿勢や言葉遣い、話を聞くときの態度などに対する意識が高まるように、事前に約束の確認をしている。今回の授業でも、教師からの説明や指示においても、手本となるよう丁寧な言葉遣いで、短い言葉で分かりやすく話し、約束事に気付けるようにした。教師と生徒が共に言葉を丁寧に扱うことを意識することで落ち着いた雰囲気にすることができ、集中して授業に取り組むことができた。おもてなしの対象を小学部児童にしたことで、「どういう言葉が分かりやすいか」「どういう話し方だと伝わるか」を考えながら、それぞれの課題に向かっている様子が見られた。



写真1 言葉遣い、姿勢の確認

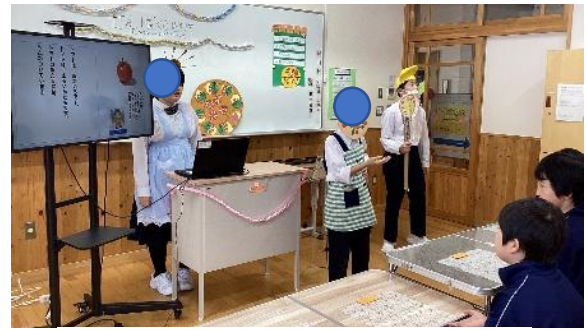


写真2 おもてなし当日の様子

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 個々の実態、能力にあわせたワークシート

文章の理解が難しい生徒には、穴埋め式にしたり、簡単な言葉を選択肢にしたり、文章読解力が高い生徒には、文章を要約して情報を整理するなど、生徒本人の理解度や語彙力等に合わせて、ワークシートを準備した。ワークシートに記入する文言を考える際に、画像や動画などそれぞれの実態に合ったヒントを出すことで、ワークシートに合う言葉を書くことができた(写真3)。また、ロイロノートを活用することで、ワークシートで考えた文言を容易に物語の脚本原稿にすることができ、達成感を味わっている姿が見られた(写真4)。



写真3 ワークシートに記入



写真4 ロイロノートの活用

⑤ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
A (1年)	国語 中1	○	◎	○	・食材についての説明文をよく読み、短い文章に要約することができた。文を読む際には、小学部の生徒にも分かるように、ゆっくりははっきり発音することを理解して発表した。
B (2年)	国語 小3	○	◎	○	・画像や動画をヒントに、経験したことを思い出し、説明に必要な言葉を考えて、ワークシートに記入した。
C (1年)	国語 小3	○	◎	○	・実体験をもとに、穴埋め式のワークシートに適切な言葉を入れて文章を完成させることができた。説明をする対象である小学部児童のことを考えて、話し方を考えることができた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 生徒同士の関わり、学び合い

教師と生徒とのやり取りが中心となってしまった。友達の話聞いてヒントをもらったり、生徒同士の感想や意見を引き出す問い掛けをしたりするなど、生徒同士の関わりを増やすことができるとよかった。生徒同士が協力するような場面を設定することが必

要と考える。友達が考えた内容について感想を発表するなど、友達との関わりの中で自発的な言葉を引き出すことで、より幅の広い活動になると感じた。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 具体的なめあての提示

今回の授業では、ピザを作ってふるまう対象が小学部であるため、「言葉を分かりやすい言葉で伝える」ことが求められる。「どういう言葉や表現の仕方が分かりやすいか」という点について、より明確に共有できるよう、めあてとして提示し確認する必要がある。めあてを基に「短い言葉」「優しい言葉」「はっきり話す」「ゆっくり話す」などのポイントを挙げ、生徒自身、あるいは生徒同士で即時評価しながら、言葉や表現について考える場面を設定できるとよかった。

2 授業実践の事例②

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象生徒・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
D (3年)	国語 中1	聞く 話す	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や聞き方によって意味が異なる語句があることに気付いている。	○	・話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めている。	○	・話す事柄を基に、伝えたいことを考え、伝える学習に関心をもち、積極的に取り組もうとしている。	○
E (3年)	国語 中1	聞く 話す	・文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知っている。	○	・相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝え、相手の思いや考えを受け止めている。	□	・自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることに関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	△
F (3年)	国語 中1	聞く 話す	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や聞き方によって意味が異なる語句があることに気付いている。	○	・相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもっている。	△	・分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ学習に積極的に取り組もうとしている。	△
G (3年)	国語 小3	聞く 話す	・姿勢や口形に気を付けて話している。	○	・経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考え、表現している。	△	・経験したこと、自分がイメージしたことなどを言葉にして表現することに関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	△
H (3年)	国語 中1	聞く 話す	・言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や聞き方によって意味が異なる語句があることに気付いている。	○	・見聞きしたことや経験などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えている。	△	・話す内容の大体が伝わるように順序立てて話す学習に関心をもち、積極的に取り組もうとしている。	○
I (3年)	国語 小3	聞く 話す	・文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知っている。	△	・見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて考え、表現している。	○	・自分の気持ちを表す言葉を探したり、話す順序を考えて表現したりすることに関心をもち、積極的に取り組もうとしている。	○

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★アルファベットは生徒名を示す。
国語	「思い出を伝えよう」(行事を振り返り、頑張ったことや楽しかったことなど項目に沿って考えをまとめる) …G、H 「学校を紹介しよう」(せんぼく校の魅力について、項目に沿ってまとめる)…F、H
生活単元学習	「私の道～高等部見学、体験をしよう」(見学や体験で感じたことについて自分の考えをまとめる、分からないことを丁寧な言葉で先輩に質問する)…E、I、F 「せんぼく校の魅力を発信～マリーゴールドをプレゼントしよう」(地域の方に自分たちが育てたマリーゴールドについて考えをまとめて説明する)…D、F
作業学習	「販売会をしよう」(作業について頑張ったことなどをお客さんに分かりやすいように伝える)…D、E、F、I、H 「頑張ったことや難しかったことを日誌にまとめよう」(新しい工程の名前を覚え、感じたことをまとめる) …G
日常生活の指導	「帰りの会で発表しよう」(1日の生活を振り返り、楽しかったことや難しかったことなど自分の考えを発表する) …E、F、I

(3) 国語科の対象単元の実践事例

① 単元名「鎌足和紙のパフレットを作ろう」(計15時間) ★令和7年9月実施

② 単元目標

ア 言葉がもつ意味が分かり、小学生が分かるよう、鎌足和紙の良さを伝える文を作る。

(知・技)

イ 友達からのインタビュー記事の中から、伝えたい内容を抜き出し、順序立てて構成を考える。(思・判・表)

ウ 小学生に伝えることが分かり、鎌足和紙の良さを知ってもらえるよう、意欲的に取り組む。(学・人)

③ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
D(3年)	国語 中1	○	◎	○	・パンフレットを作ることを楽しみに、自分が担当する工程以外について、友達にインタビューを意欲的にすることができた。 ・パンフレットに載せる文を考える際に、項目があることで、それに沿ってインタビュー記事の中から抜き出した。 ・小学生に分かるよう、難しい言葉を易しい言葉に直した。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 生活単元学習の対象単元の実践事例

① 単元名「せんぼく校の魅力を発信」(計16時間) ★令和7年9月実施

② 単元目標

ア 鎌足和紙交流会に向けた自分の役割が分かり、良さを伝えるための説明文を考えて話したり、会の成功に向けて友達と協力して準備したりする。(知・技)

イ 交流会成功のために、工夫したいことやアドバイスを友達同士で伝え合う。(思・判・表)

ウ 鎌足和紙体験会やそれに向けての活動を通して、友達と活動をやり遂げる楽しさや表現し合う大切さを感じ、広く人と関わろうとする意欲をもつ。(学・人)

③ 単元の概要

本単元では、作業学習で行っている鎌足和紙作りを近隣の小学生に広めるために、体験会を行う活動を通して、感じた事柄を相手に分かるよう表現する力を育成することをねらいとしている。普段行っている各工程においても、あやふやなまま使っている言葉もあり、「小学生に分かりやすく伝える」という共通の目的があることで、より相手のことを考え、一つ一つの言葉を選び、文にする学習を設定したいと考えた。また、自分が考えた文章を添削したり、友達に聞いてもらう体験の演習活動を入れたりすることで、より様々な表現方法があることを知るきっかけにもなると考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 動作と言葉の対応

自分たちが作業学習で行っていることの紹介であったが、いざ授業をしてみると、担当する工程について言葉で表現することが難しい場面があった。そこで、言葉のもつ意味を深く考えさせ、具体的な言葉で表現できるよう、言葉と動きとを対応させながら話す時間を設けた(写真5)。言葉で表現することが難しい生徒も、道具を持ちながら、話す内容を考えたことで、「ボンドを塗るときは、刷毛を真ん中から端に向かって塗ります」と話すなど、相手に伝わるよう具体的に考え話すことができた(写真6)。また、道具を使って説明する際に、「これ」「あれ」など指示語を活用するなど、表現方法を工夫することができた。



写真5 動きを付けながらの発表練習

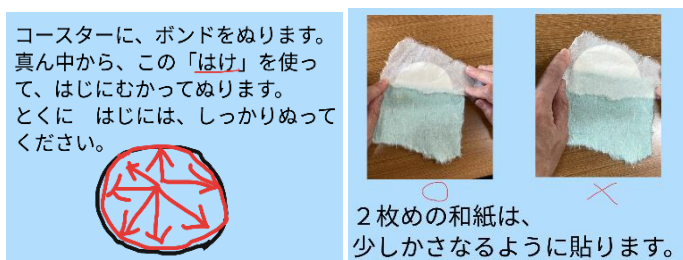


写真6 生徒が使用した発表原稿

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 「話すこと」における気を付けることの提示

体験に向けた練習場面では、どのようなポイントで話すことが大切か、「声の大きさ」「スピード」「表情」などのチェック表を提示したことで、意識しながら話すことができた。また、練習場面を動画に撮って振り返り場面に提示し、チェック表を参考にしながら自己評価をした(写真7、8)。自己理解が難しい生徒については、友達からアドバイスを受ける時間を設けたことで、自分の考えと友達との意見とをすり合わせて考えることができた(写真9)。人前で話すことに苦手意識をもっている生徒もいるが、「小学生に伝える」という目的の基、言葉一つ一つを大切に丁寧に話すことにつながった。



写真7 自己評価場面の設定

自己評価
わかりやすく話せた。説明の合間に顔を上げたり、ゆっくり説明した。原稿のみではわかりにくい部分もあったため、その場で説明を加えた。

おおきなこえ
かおをあげる
つくりかたをみせながらせつめいする
にっこり

[もう少しなところ]
・声が少し小さい場面があったので、もう少し声を大きくすると思う
・一部小学生には意味がわからない言葉があったように感じたので、わかりやすい言葉に置き換えると思う。(剥がすなど)

写真8 自己評価

写真9 友達からのアドバイス

⑤ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
D (3年)	国語 中1	○	◎	◎	・人に応じた話し方に難しさがあったが、「小学生に向けて優しい口調で話す」「内容を分かりやすくする」など相手に合わせて、話すことができた。
E (3年)	国語 小3	○	○	◎	・自己評価の場面を設定することで、自分ができなかったことにも目を向けて、「ゆっくり話す」「説明文を短くする」等、友達の意見を受け入れ、改善するようになった。
F (3年)	国語 中1	◎	○	○	・人の意見を受け入れることは難しい場面があったが、学習を進めるに従い、目的を理解し、小学生が分かるよう、自分が使っている言葉を言い換えるなど、意欲的に学習に向かえるようになった。
G (3年)	国語 小3	○	◎	◎	・人前で話すことに抵抗感があるが、小学生に伝えることを楽しみに、大きな声で、顔を上げて話した。2語文で話すことが中心だったが、普段している作業学習ということもあり、3語文で話すこともできた。
H (3年)	国語 中1	◎	◎	○	・感じたことや思ったことを言葉にすることが苦手であるが、動作と結びつけたり、イラストで説明したりすることで、自分がしていることを言語化することができるようになった。
I (3年)	国語 小3	○	○	◎	・「あれ」「これ」など指示を指す言葉の際に、指さしをした方がいいなど、より分かりやすい発表に向けて、友達に具体的なアドバイスができるようになった。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 思考を整理し発言を促すための手立て

より分かりやすい発表を目指し、どの点を工夫すればよいか、友達同士で話し合う場面を設定した。意見を考えることが得意な生徒は、たくさん話すことができる一方で、自分の考えをうまくまとめられない生徒も見られた。限られた時間の中で、考えをまとめ、発言することができるよう、選択肢の提示等、実態に応じた手立てが必要だった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 友達から出た意見の共有～ICT機器の活用～

生徒からのたくさんの意見を教師が板書し、まとめの時間に活用した。すべての意見をまとめることができず、せっかく出た意見も見落としてしまうことがあった。さらによい発表になるよう、出た意見をグループ化して項目立てしたり、要点を整理したりするなど、みんなで共有するための手立てが必要であった。また、そのためにロイロノートスクールや生成AI等のICT機器を活用していきたい。

3 まとめ

(1) 成果

① 生徒の実態把握とねらいの共有化

観点別評価表を基に、担任間で「聞く・話す」について実態を把握し、それをどのように生活単元学習の中に取り入れるか、共有したことで、生徒のねらいに即した授業づくりができた。また、どの指導の形態で扱うのか確認したことを単元配列表に反映させたことで、生活単元学習で扱う内容、国語科で扱う内容を分けて学習を展開することができ、より生徒のねらいに近づけることができた。特に生活単元学習の授業においては、担任間でねらいに応じた手立てを検討することにつながり、生徒の変容が見られた。

② 相手を意識した活動目的の提示

小学部や近隣の小学生に伝えるという、生徒にとって分かりやすい目的を提示し、学習を積み重ねていったことで、「話す」ことが苦手な生徒も、相手を意識して学習に向かうことができた。また、自己中心的な生徒も、相手により分かりやすく伝えることを目的に、友達のアドバイスに耳を傾け、意見をすり合わせながら取り組む様子も見られた。また、昨年の反省から他者に相談する場面など、生徒同士の言語活動の場を設けた。昨年は何を話して良いか分からず教師の介入が多く見られたが、今年度は交流相手があることで、目的が明確になり、自分の考えを伝えることにつながった。話し合い活動という言語活動の場は各学級において互いの考えを確認することで仲間意識ができ、互いの良さを認め合うことができた。

(2) 課題

① 学級担任と教科担当とのねらいの共有

国語科のグループは4つあり、それぞれの学習内容と進捗状況が見えにくかった。担任以外が国語科のグループを担当している場合もあり、国語科の内容を生活単元学習にうまく生かせない単元もあった。また、担任からは、もっと国語科で取り上げてほしい内容もあった。年間指導計画作成後に互いの計画を見合う機会や単元配列表を基に中間評価の場の設定など、担任と担当がねらいと進捗状況を確認しながら、授業を進める必要がある。

③ 「書く」指導のねらいと時間の設定

ロイロノートスクールを中心としたICT機器の活用が国語科、生活単元学習などの学習においても見られるようになった一方で、生徒の「書く」機会が減り、今まで書くことのできていた文字も書けなくなる場面が見られた。「書く」ことに苦手意識をもっている生徒も多数見られ、タブレット型端末を使うことで、学習に意欲的に向かえるようになった反面、これまでの学習で積み重ねてきたこともできなくなっている。ICTの効果的な使用という点を忘れずに、生徒の実態から、個々の能力がしっかりと生かせるよう、授業づくりをしていく必要がある。

